

仕事・就労支援を切り口にした地域づくりを 応援する WAM 事業(地域づくり応援プログラム)の ご案内

昨年度、公益社団法人ユニバーサル志縁センターでは「多様な地域連携による就労支援」をテーマに、さまざまな相談現場で活躍する関係者の皆さんによるワークショップを全国6地域で開催し、就労支援の現状認識を共有するとともに、今後の方向づけを行いました。高校世代や氷河期世代等の若者、セカンドキャリアで悩む高齢者、就労や就労継続をめざす障害者やひとり親、不安定な非正規雇用者や個人事業主など、さまざまな対象ごとに普段はバラバラに相談対応していますが、ワークショップを機に、改めて相談をどう受け止め、効果的な支援を工夫すればよいか、建設的な意見交換と状況の共有を進めました。その成果は「多様な地域連携による相談支援のロジックモデル(作戦体系図)」にまとめ、参加団体の皆さんには好評をいただきました。この度、そのノウハウ等について、「仕事・就労支援を切り口にした地域づくりを応援する WAM 事業」として、全国の皆さんにお伝えすることになりました。

1. 地域づくりに向けた多機関・多部門による意見交換、ワークショップ等による応援プログラム

2. 仕事・就労を切り口にした地域づくりに必要な情報や課題整理のためのセミナー(地域づくり担当者セミナー)

3. 地域づくり応援デスクの活用(情報提供や Q&A など)

●こんな疑問や悩みをいただいている相談支援機関の方は是非ご検討ください。

就労支援の必要な人が増えている。相談は…? 支援は…?

体験や支援付き短期バイト等の選択肢がもっとあれば…!

協力事業所等の働く場の強みを引き出すには…?

就労を実現しても続けられない人もいます。どうすれば…?

履歴書と面接がいらぬ就職って? どうすれば…?

●仕事・就労支援を切り口にした地域づくり応援プログラムの内容は…

- ①ワークショップを通じて、役所や各種団体のさまざまな相談窓口で表れる仕事・就労のニーズや支援対象像を改めて整理します。
生活困窮はじめ高齢、ひとり親、障害、ひきこもり、氷河期世代、心身の健康、教育、さらに税や保険料などの窓口では担当者の方が仕事・就労に関わる悩み・相談ニーズに気づくことが多くなりました。コロナ禍では仕事や就労の要支援層が一気に表出し、広がりました。さまざまな窓口や関係部署が関わる相談体制や継続した支援をどうデザインすればよいか、地域づくりとして意見交換してみます。
- ②皆さんの団体、地域における支援の活動や事業を改めて見直す作業(ワークショップとその整理)を応援します。
連携の強化や重層化などが指摘されていますが、既存の活動だけでなく、検討中の取組みや今後必要な活動も含めて一覧、地域づくり設計図・作戦図(ロジックモデル)の形に整理してみます。
- ③仕事・就労支援を切り口にした地域づくりの目標について役所や団体内外の皆さんで意見交換する場づくり、意見交換の機会を応援します。その結果は、地域づくり設計図・作戦図(ロジックモデル)として提供します。
- ④さらに、整理された重点課題について、勉強会等のコンサルテーションも利用いただけます。

※厚生労働省が進める重層的支援整備、特に地域づくりに関する準備の1つとして、またコロナ禍における「原油価格・物価高騰等総合緊急対策」を踏まえ「官民連携による地域の生活困窮者支援体制を構築するためのプラットフォーム整備」事業など、11の補助事業からなる「生活困窮者自立支援の機能強化事業」等と併せて、本応援プログラムの活用をご検討ください

●重層的支援整備の準備にご活用ください

お気づきでしょうか？この地域づくり応援プログラムは各地で始まっている重層的支援整備の準備そのものです。地域づくりや参加支援、就労を含む相談の強化等に関する具体的な検討にほかなりません。○就労支援の強化に取り組む団体や関係部署、○重層的支援整備の地域づくり等を検討される団体や関係部署、○多機関・多部門の効果的な連携や重層化に取り組む団体や関係部署の皆さん。ぜひこの地域づくり応援プログラムをご活用ください。

ステップ1 さまざまな団体や関係部署による意見交換の場づくり

地域の関係者がうまく連携するには何から始めればよいのでしょうか？

まずは、参加してほしい団体等をリストアップしましょう。ワークショップ案内の作成からワークショップの運営、その成果のまとめまでをユニバーサル志縁センターが応援します。相談支援の現場で気づいているニーズ・課題や就労支援にまつわる地域の課題について意見交換すると、連携のヒントもわいてきます。必要な取り組みのアイデアも生まれてきます。

ワークショップ1

仕事・就労支援ニーズをもつ人はどんな人？
そうだったのか！改めて知る相談や支援の現状

ワークショップ2

相談支援の改善は…？ 必要な地域づくりは…？
取り組みを通じて、実現したい地域の姿は…？

◆昨年度に実施した地域づくり応援プログラム(6地域)では次のような関係者がワークショップに参加し意見交換しました。

生活困窮者自立相談支援機関 相談支援員、就労支援員／コミュニティソーシャルワーカー／仕事・生活サポーター(ボランティア)／生活保護担当課、ケースワーカー／ひとり親担当課、母子自立・女性相談員／子育て支援課／障害福祉課／地域・高年課／福祉課地域包括支援係／男女共同参画センター／学校教育担当課／産業経済部門(雇用、農林業ほか)／商工観光担当課

社会福祉協議会／地域包括支援センター／在宅介護支援センター

地域若者サポートステーション／児童養護施設 自立支援コーディネーター

精神医療機関 ソーシャルワーカー／国際交流センター 相談員／民生委員／保護司

県立高校 進路指導担当教員／特別支援学校 進路指導担当教員

障がい者就業・生活支援センター／地域生活支援センター／障害者就労支援サービス事業所／様々な NPO

公共職業安定所／商工会議所、商工会／認定就労訓練事業所、就労支援の協力事業所 など

◆ワークショップを通じて描いた「仕事・就労支援の機能強化を通して実現したい地域の姿(最終アウトカム)」を表すと…

・やりがい、生きがいを持つ人が増える
・企業等の人手不足が解消される

・地元企業のネットワークやコミュニティ化
・活気ある市になる

・健康寿命がのびる
・子どもが増える
・年収アップする など



【昨年度のワークショップ参加者の声】

「分野を超えて意見交換を行うことで、新たな気づきがあった。」

「それぞれの社会資源を相互連携することにより、さらなる取り組みができると感じた。」

アドバイザー

西岡 正次 氏

A'ワーク創造館(大阪地域職業訓練センター)副館長・就労支援室長、生活困窮者自立支援全国ネットワーク理事

仕事・就労の相談支援の活動が広がる中で見えてきたこと。1つは就職支援と就労支援の異同。自己理解や職業準備性に関わる対話、就労準備段階の支援、働く場と連携した職業紹介、定着支援、そして健康や生活等の包括的支援などは、就労支援が工夫してきたこと。もう1つは就労支援の発展段階として①めざすキャリアに寄り添う継続した個別支援 ②欠かせない多職種連携 ③インクルーシブな企業や地域づくり が明らかになりつつあること。一緒に意見交換してみましょう。

●事例(1) 協力事業所(就労訓練事業所など)との連携に関する活動

地域の協力事業所が増えたが、その働く場を利用した支援、相談者を体験や短期バイトで受け入れてもらう支援を進めたいが…？ 体験等の内容をどう調整すればいいのか？相談者が不安なく体験等を利用するにはどう伝えればいいのか？就労支援に連携・協力いただく事業所へのアプローチは、模索や試行が続く新しい課題です。昨年度も、事業所の側から「どのように協力すればいいのか？」と積極的な申し出を受けた事例がありました。事業所の皆さんとの勉強会などの進め方、働く場を利用する体験や訓練、短期バイトといったプログラムづくり、さらに相談現場への案内方法などのデザインを応援します。相談者とともに、協力事業所の方にもメリットを感じてもらえるアプローチを一緒に考えましょう。

予防的な就労支援

就労準備支援や就労訓練のねらいは、求職準備段階の相談者が「働く場」を利用して自己理解や準備性を高める機会を提供することと、事業所側が就業者の事情に配慮した仕事や働き方、職場環境整備について体験的に理解する機会になることです。これらは不安定な初期キャリアや離職等のリスクへの予防的な取り組みにもなります。また、体験や支援付き短期就労の受け入れ先となる「働く場」の内容や特徴をわかりやすく「見える化」する工夫も問われます。

教育や地場産業、人口対策と労働分野の連携

高校生や大学生、一般就労をめざす障害者などの求職準備を応援する関係者も、安心してチャレンジできる事前の体験やバイトなどを提供できたら、といます。また、デジタル化やサービス化等が進み、職業訓練等の労働施策を活用した支援も欠かせません。

人手不足で悩む地域産業も、人口対策も、「見えない」多様な求職準備層にいかにか情報を届けるかがカギとなりそうです。

●事例(2) 自立相談支援機関等の機能整備サポート

めざす就労の実現を阻害する要因は健康や生活、居住、障害、家族などさまざまです。生活困窮者自立支援制度では包括的な相談支援をめざし、さまざまな支援サービスを調整・提供しています。ただ、相談者がめざす職業生涯(キャリア)を理解し、目標を見通しながら、就労準備から就労そして定着のプロセスを整理していく就労相談(キャリアコンサルティング)はまだ整備途上です。就労・キャリア相談は生活の困りごとから始まる生活相談とは異なるアプローチが必要です。仕事・就労をめぐる対話の進め方、希望や強み(ストレングス)を言葉にするツールなど、相談支援の機能強化を進めてみませんか。また協力事業所での体験や訓練、短期バイトなどのプログラムの作り方などを紹介します。

自治体等による無料職業紹介の活用は、職業紹介ができるという側面のほかに、無料職業紹介所を開設することによって、地域の企業や事業所との関係づくりなど、従来できなかった仕組みづくりが可能になる側面もあります。仕組みづくりの事例から、地域にあった活用を一緒にデザインしてみましょう。必要に応じて関係者を対象にした研修も提供します。

●事例(3) 福祉・保健・納税など、多様な相談機関・部署等のネットワークづくり

役所や各種団体にはさまざまな相談や手続きの窓口があります。福祉や保健医療サービス、税や保険料、教育などの窓口では仕事や就労の困りごとを感知することが多くなっていますが、各窓口で気づく困りごと、特に就労に関して相談にすべて対応できません。「(就職支援を行う)ハローワークへ」を案内する前に、役所や地域団体が行う相談支援は利用されているでしょうか？ 仕事・就労の相談はネットワークされていますか？早期発見やチーム支援について意見交換する機会をつくってみませんか？そして、地域にあった連携・重層化に必要なツール等を作成しましょう。

事業主体:公益社団法人ユニバーサル志縁センター (東京都港区新橋 4-24-10 アソルティ新橋ビル 5階)

*この事業はWAM社会福祉振興助成事業(コロナ禍における生活困窮者及びひきこもり支援に係る民間団体活動助成事業・令和3年度補正予算事業)の採択を受けて公益社団法人ユニバーサル志縁センターが実施するものです。

仕事・就労を切り口にした地域づくりに 必要な情報や課題整理のためのセミナー (地域づくり担当者セミナー)

【プログラム】 時間はいずれも13:30~16:00

オンライン講座

参加費無料

	日時	内容	講師
1	6月29日(水)	イントロダクション (1) 事業およびセミナーのガイダンス (2) 重層的支援、地域づくりの取組みと就労支援の課題 (3) 「重層的支援整備事業」「生活困窮者等支援のための地域づくり事業」について	
2	7月13日(水)	地域を深く知る① (1) 改めて、支援対象者像や支援ニーズを理解する 事例: ワークショップによる質的データの見える化 (2) 調査・統計データから地域を知る ~地域づくりのためのデータ集をつくる~ 演習: 受講者の地域データ集を作る(完成版を第4回(1)で発表)	
3	7月27日(水)	変化・進化する就労支援①へ ~就労支援の到達点を考える~ (1) 継続した個別支援と多機関連携 ~就労相談、支援内容ほか~ 事例: ユニバーサル就労ネットワークちばの取組みから (2) 事例検討: グループワーク	
4	9月 7日(水)	地域を深く知る② (1) 定量データから地域づくりの課題を探る ~受講者作成のデータ集から地域づくりの特徴や課題を読み取る~ (2) 公的な計画や方針等を読み取る (3) 就労支援に関与する地域の施策・事業プレイヤーを理解する	佐藤もも子氏 新藤健太氏 鈴木由美氏 高木哲次氏 常松順子氏 西岡正次氏 前田和美氏 三辻茂樹氏 矢野茂生氏 ほか
5	9月21日(水)	重層的支援と仕事・就労支援の課題① (1) 仕事・就労支援を見通すロジックモデルと地域づくりの作戦体系図 事例: ワークショップによるロジックモデル作成 講義とグループワーク、ゲスト講師との意見交換 (2) ※第6回(2)の演習課題の説明=地域で活用できる訓練を探す(個人ワーク)	
6	10月 5日(水)	変化・進化する就労支援② (1) 「働く場を利用した就労支援」のタイプと進め方(就労訓練事業所等との関係づくり) (2) 無料職業紹介所が可能にする支援機能と活動の進め方(事例を交えて) (3) 公共調達と認定就労訓練を組み合わせる(事例を交えて) (4) 演習: 地域で利用できる訓練の現状と活用の進め方(個人ワークのもとに)	
7	10月19日(水)	変化・進化する就労支援③ (1) 「訓練を活用した就労支援」の可能性と課題 ~仕事や働き方の変化に対応したスキル習得やキャリア形成の進め方~ (2) デジタル化と職業訓練 ~CADオペレーター養成訓練等を中心に~ (3) 就労支援と連携した訓練や事業所向け支援の推進~労働施策との連携~	
8	11月 2日(水)	重層的支援と仕事・就労支援の課題② (1) 仕事・就労支援を切り口にした地域づくりに向けて ~地域特性を活かした仕組みや組織づくりをさぐる~ (2) 地域づくり作成体系図の効果的な実施とプログラム評価 (3) 地域づくりのための仕組みや組織づくりを考える (4) セミナー修了式	

* セミナーのスケジュールは変更することがあります。(後日、動画視聴可)

仕事・就労支援を切り口にした地域づくりを 応援する WAM 事業(地域づくり応援プログラム) お申込みのご案内

地域づくり応援プログラム説明会(オンライン)

日時: 2022年6月1日(水) 13:30~14:30

申し込み締め切り: 5月31日(火)正午

申し込みフォーム: <https://forms.gle/H1KgwEuZ86iQp9U57>

* お申込みいただいたメールアドレスに参加方法(Zoom 情報・資料)を前日までに
ご案内いたします。



地域づくり応援プログラムの利用(団体による申込み)

<内容>

ステップ1 さまざまな団体や関係部署による意見交換の場づくり(ワークショップ2回)

ステップ2 「地域づくり設計図・作戦図」をもとに具体的な応援プログラム(コンサルテーション1回)

実施時期: 2022年7月~2023年1月(応相談)

申し込み・問い合わせフォーム: <https://forms.gle/Gv7NM2uFVDqYoKdD9>

定員: 全国で5地域(お申込み多数の場合、お断りすることがございます)

申し込み期間: 6月1日(水)~6月30日(木) * 定員に達しましたら受付を終了いたします。



地域づくり担当者セミナーへの参加(先着 300 名様)

地域づくり応援デスクの利用(情報受信)

(個人での申込み可)

セミナー実施時期: 2022年6月29日~11月2日

地域づくり応援デスク開設期間: 2022年7月~2023年3月

申し込み受付: 随時 (セミナー初回の締め切りは 6月24日(金)正午)

申し込みフォーム: <https://forms.gle/3Qa5jUehHGhzN7rEA>

* お申込みいただいたメールアドレスに参加方法(Zoom 情報・資料)を開講日までに
ご案内いたします。

